目次

神韻と中国伝統文化 2
中国伝統文化への誘い 2
中国の伝統文化に関してよく見られる誤解 3
誤解 1：中国共産党政権下でも伝統文化を見たことがある 3
誤解 2：神韻の法輪功に関する演目は「政治色」があるのでは？ 4
誤解 3：中国はカンフーなどの技が凄い 5
誤解 4：古代中国は遅れていて、専制的だったのでは？ 6
誤解 5：伝統文化が中国の科学の発展の足を引っ張ってきた 7
中国の伝統文化の破壊 8
文化大革命 8
党文化 9

神韻と中国伝統文化

洗練された舞踊の技術、東西楽器を融合したオーケストラ、美しい衣装、目を見張る舞台背景…これは一見した神韻の印象ではないでしょうか。しかし、もう少 し掘り下げてみますと、伝統的な中国文化の深い意味が込められています。舞台では天と人とが一つに融合しています。人々は天を敬い、自分の天命をわきまえ、善悪には相応の報いがあります。仁、義、礼、智、信などが全て目の前で息づき、観客を魅了します。これらの価値観は、儒教、仏教、道教に由来し、中国 で発展してきた伝統文化の精髄とも言えましょう。

中国共産党は中国の政権を手中に収めて以来、数十年にわたって様々な政治運動を展開して きました。特に文化大革命では、文化的な遺跡や寺院を破壊しただけでなく、中国人が伝統的に受け継いできた、神を敬い徳を積むこと、自然を保護すること、 生命を大切にすることなどの理念も破壊しました。今日、中国共産党は表面的には伝統的な中国文化の復興を掲げていますが、どれほどの努力を払おうとも効果 はありません。無神論を基盤とする共産党は、神を尊重するという文化的な真髄を取り去ってしまいました。中国の伝統文化の心と魂を掴み出してしまったこと に等しいのです。神韻は、これらの道徳心を世界に取り戻すことを願い、日々、努力を重ねております。

中国伝統文化への誘い

古代中国では自国を「天朝」と呼びました。東アジアの中央の王国という意味だけではなく、より奥深い意味があります。神が降り立っ た地であること、様々な王朝を通して、神が豊かな文化を人類に伝えた土地であるという意味合いが含まれるのです。このため、中国文化は神伝文化としても知 られており、五千年の歴史が途絶えることなく記録されてきた世界唯一の文明でもあります。数限りない経典、文献、文化的な遺物、詳細な歴史的記録など、実 に幅広い形で、貴重な文化が残されています。
中華文明は五千年以上前に黄帝が創始しました。道家を修め、智と力に長けていたと伝えられています。黄帝は、天道に沿って生きることを民に諭しまし た。古代中国の伝説では、多くの神々が、人類に必要な文化を伝えたことが語られています。例えば、蒼頡（そうけつ）が漢字を発明し、神農が農業を伝え、燧人（すいれん）が火の使い方を示しました。

中国の三教、儒教・仏教・道教は中国文明五千年の根底に流れる思想です。道教では、中国文化の流れは、2500 年前に老子の『道徳経』によって系統化されたとみなされています。『道徳経』では、「道」と呼ばれる玄妙な宇宙のあり方を解説しています。
儒教では、治世、家族、個人のふるまいにおける道徳規範を重視します。孔子（紀元前 551-479 年）の教えは、漢（紀元前 206 年-紀元 220 年）の時代に始まり、ほとんど全ての朝廷が指針としてきました。官僚になるには、科挙と呼ばれる試験を通過しなければならず、儒教の古典と道徳規範の理解 力を総合的に把握していることが要されます。
紀元 67 年、仏教が古代インドから中国に伝来しました。個人の救済と瞑想は、中国文化に深い影響を与え、今日まで続けています。唐の時代（618-907 年）は、中国文明の最高峰としてしばしば言及されますが、儒教、仏教、道教の発展は、この時期に絶頂に達しています。
これらの三教の影響により、中国文化は豊かで奥深い系統化された価値感を生み出してきました。「天人合一」「敬天知命」「仁、義、禮、智、信」などの伝統的な価値観は、三教から発し、発展し、形成され、中国五千年の歴史を通して幾度となく人々が実践してきました。

中国の伝統文化に関してよく見られる誤解

「文化」という言葉は、実に多くの領域に及びます。文学、古跡、歴史、哲学、医学、芸術、料理、服飾など、生活のあらゆる側面に関わりま す。しかし、その根本は教えを信じることにあります。中国の伝統文化は儒教、仏教、道教を基盤としています。これらの理解がなければ、伝統文化に関して多 くの誤解が生まれてしまいます。ここでは幾つかの誤解を取り上げます。

誤解 1：中国共産党政権下でも伝統文化を見たことがある

西洋の人々に「中国の伝統文化」と言えば何を連想しますかと尋ねると、多くの方は、「北京五輪の開会式で見た、美しい衣装をまとっ た踊り手たち」「HERO（ヒーロー）のような映画に見られる武術の動き」「うちの大学で開設された孔子学院のカリキュラム内容」のような回答をされるこ とでしょう。

これらの回答は中国伝統文化のごく表面的な要素に触れているに過ぎません。これらには、中国共産党が数十年かけて破壊しようとしてきた、精神的に自己

を律することと神を崇敬するという伝統が欠けており、肝心な要素が抜け落ちてしまっているのです。

古 代から中国の人々は、様々な王朝を通して、神が人間に豊かな文化を授けてきたと信じてきました。特に神、仏、道がこの中核にあります。これらは精神性、信 仰を促し、徳を尊び道を重んじる、善悪に相応の報いがある、仁、義、礼、智、信などの価値観に敬意を払うことの大切さを啓蒙してきました。

し かし、無神論が根源にある中国共産党は、神への信仰が党への忠誠を弱めるのではないかという恐れから、これらの価値観や信念を壊滅しようとしています。 様々な運動を展開し、文化・宗教に関わる場所を破壊し、「天、地、人に対して闘争する」という理念を中国人に押し付けてきました。

今日の中国では、中国共産党によって、伝統的な衣装を用いて伝説を表面的に伝えるパフォーマンスや展示が提供されていますが、中国の伝統に根ざす精神文化の真髄は全く存在していません。

このようなショーを中国の正統的な伝統文化だと解釈してしまいがちです。そして、神、仏、道に言及する神韻を、宗教の押しつけだと一蹴してしまいます。

実際には、神への信念が中国文化の中核にあり、芸術から神を取り除いてしまったら、その栄華と壮麗さを不当に扱うことになってしまいます。この失われた伝統、奥深い内包を復興させることを、神韻は目指しています。

誤解 2：神韻の法輪功に関する演目は「政治色」があるのでは？

神韻は中国の神伝文化の内包を舞台に息づかせるストーリーを題材としています。それには、故事伝説、歴史上の人物や物語、そして法輪功の修煉といった、現代に起きている出来事などが挙げられます。

「真、善、忍」の理念を指針とする法輪功（法輪大法としても知られます）は、1 億人以上の中国人が、儒教、仏教、道教の思想に見られる中国の伝統文化の真髄に立ち返り、理解することを助けてきました。

しかし、中国の伝統文化とは全く対照的な体制と理念を掲げる中国共産党は、法輪功を迫害の対象としてきました。

1999 年、中国共産党政権は、権力と資源を駆使して、残虐で系統的な迫害運動を展開し、法輪功の撲滅を試みてきました。しかし、学習者は固い信念を守り続け、平 和的な手段で無数の不当行為を暴露してきました。学習者の慈悲深さと忍耐強さは、中国五千年の神伝文化の真髄を顕現するものです。法輪功が政治的なのでは なく、共産党政権が政治的な手段を利用して法輪功を迫害し、迫害について語ろうとする者を黙らせてきたというのが現実です。

神韻の舞台で は、敬虔な態度、神の慈悲、善悪の応報、人生の意味への探索などのテーマが、法輪功関連の演目で扱われてきました。これらの演目は人々の心に触れ、知性を 目覚めさせてきました。観客の方々は、これらを前向きにとらえ、政治的であるかどうかは全く意中にありません。「政治色」という言葉を用いること自体、正 確に情報が伝わっていないことの現れです。
法輪功に関する詳細に関しては、公式ホームページをご覧ください。
http://www.falundafa.org
http://www.falundafa.jp/

誤解 3：中国はカンフーなどの技が凄い

「上士は道を見て、下士は器をみる」三千年前の『易経』に記された言葉です。中国のカンフーといえば、ブルース・リー、カンフー・ パンダなどを連想しがちです。しかし実際は、優れた武術は闘いのためではなく、精神修養のために用いられました。武道の一部を成す修業が、今日知られる奇 跡的な話を生み出してきたのです。

中国に『天下の功夫（カンフー）少林寺より出づ』という言葉があります。少林寺を創設した達磨は禅宗の 元祖であり、少林寺の近くの五乳峰の石洞で、壁に向かって 9 年間、悟りを開くまで瞑想を続けました。同じ場所に長く座り続けていたので、影が石に染み込み ました。高さ三尺余りの白石に、僧侶が背中を向けて座っているような形の淡い墨絵のような影が見られます。達磨の面壁九年の背後にあったこの石は、「面壁 石」と呼ばれています。

他の仏教や道教の修煉者も、同様に超常的な体験を残しています。禅宗の六祖慧能（638-713 年）は、死後も肉 体が腐りませんでした。遺体は現在でも広東省の南華寺に収められています。また、西洋でもなじみ深い太極拳は、明朝に道家の修煉者であった張三豊が武当山 で始めたものです。張三豊は 130 歳まで

生きたと言われています。

同様に、仏家や道家の修煉、あるいは儒教の哲学体系を指針とすることによって、医学、天文学、舞踊、音楽、絵画、兵法、文学、詩、料理、建築の分野で、最高の境地に達した例が中国史を通して見受けられます。そしてこれらは、目に見える物や技能に限りません。

中 国国内で、中国の伝統文化について語ったり、展示しようとする人に出会うかもしれません。しかし、正統な中国文化は非常に複雑で奥深いものです。それは単 なるカンフー映画、饅頭、獅子舞とは異なる、精神性を極めたものなのです。悲しいことに、中国共産党が数十年にわたり、系統的に伝統文化を破壊してきたた め、中国の伝統文化に本当に通じている人は中国国内でさえ、ほとんど存在しません。

これらの人々に、真の伝統文化を一目見る機会を与えたい、これが神韻の願いです。

誤解 4：古代中国は遅れていて、専制的だったのでは？

秦の時代（紀元前 221-206 年）、皇帝は中国最高の統治者となりました。古代中国の文化には、憲法はありませんでしたが、儒教思想が権力を抑制する役割を果たしました。

漢 の時代の儒教学者、董仲舒（とう ちゅうじょ）は、武帝のために『天人三策』を著しました。そこには、なぜ皇帝が「仁政」の思想をもって国を治めなければならないのかが解説されています。 漢の時代以降、儒教思想が、皇帝の振る舞いを常に確認するための拠り所となりました。

隋（581-618 年）と唐（618-907 年）の朝廷は、「三省六部制」を政治制度としていました。王権の均衡を保つために設けられた、西洋の分権制度に類似するものです。勅令は検閲局が審査・検証します。検閲局は勅令を拒否する権力を持っていました。

古代中国では、人々は自由に言論を交わしていました。宋朝を建てた太祖は、大臣を殺害することはないと誓い、家臣が自らの意見や立場を表現する自由を認めました。

中華文明の始まりから、私有財産は常に尊重されてきました。中国共産党が権力の座に就く前までは、政府の関与は市のレベルに留まっており、徴兵、税の徴収、公共事業のための義務労働以外に、政府が市民生活に干渉することはありませんでした。

道 家は陰陽の調和を重視し、儒教は「君子は和して同ぜず」と、異なる中での和を尊びます。このため、古代中国は多元的で包容性の高い文化となりました。特に 唐の時代、儒教、仏教、道教が同時に栄え、さらにキリスト教やユダヤ教、その他の宗教も自由に伝教され発展していきました。

天子として、中国の皇帝は天道の定めに従うことが求められてきました。神を敬い、伝統、文化、祖先を尊ぶことが求められました。中国だけでなく、ローマやヨーロッパの中世期にも、同様の「政教合一」の側面が見られます。

漢の時代（紀元前 206-紀元 220 年）に、中国は才能のある者を育むために太学（国士監）を設立し、系統的な教育を行いました。隋の時代（581-618 年）には、官僚、高官を選抜する包括的で公平な試験制度が導入されました。また、孔子は私学を開設し、全ての中国人が平等に教育を受ける権利を与えまし た。中国の優れた古典も隆盛しました。現代作家の中に、これらの古典に及ぶものは見当たりません。

誤解 5：伝統文化が中国の科学の発展の足を引っ張ってきた

21 世紀から古代中国を見ると、今と比べて社会は後退し、世界から取り残されているように見えるかもしれません。しかし、実際はその逆だったのです。

中国の科学と技術は、ヨーロッパで産業革命が起きるまで、世界最高のレベルでした。ヨーロッパの軍事や文化の発展に欠かせなかった製紙、印刷、方位磁石、火薬などは、中国で最初に発明されました。700 年後に西方に渡ったのです。

漢、宋、唐などの時代は、優れた医者、詩人、将軍を多く輩出しました。今日の専門家の多くは、当時生み出された薬、詩、戦略などを見て、畏敬の念を抱いています。

中国と西洋の科学技術の格差が広がったのは、19 世紀半ばのアヘン戦争後のことです。清の王朝が、包容性に富み、革新に寛容な伝統的な中国の精神からずれていったことが原因です。

こ の格差は 20 世紀、毛沢東がインテリ階級に向けて行った「反右派運動」、中国の教育層に過酷な処罰を与えた「文化大革命」などを経て、さらに拡大していき ました。今日の中国経済の発展にも関わらず、中国共産党は抑圧、汚職、検閲にまみれ、知識層や科学者たちが新たなレベルを切り開くことを阻んでいます。

グローバル化とハイテク化が進んだ世界で、中国の伝統文化が復興することは、新しい何かを生み出すことになるかもしれません。

いったい何が生み出されるのか、この答えこそ、神韻が知りたいところなのです。

中国の伝統文化の破壊

今日、神韻が中国では見ることができないと知ると、多くの観客の方々は驚きを隠せません。実際、神韻のような公演は中国では鑑賞できません。「なぜ中国文化を中国で見られないの？」という疑問にお答えしましょう。

そのためには、文化大革命と、五千年の伝承文化を系統的に破壊しようとした各種の運動へと遡る必要があります。中国の古典文化を復興することが神韻の使命ですが、ここでは、「なぜ、中国文化を復興する必要があるのですか？」という質問にお答えしましょう。

文化大革命

ここ数十年にわたり、中国では実に幅広い運動が行われました。西洋で社会運動と言うと、抑圧に対して自由や正義のために立ち上がる ことを連想されることでしょうが、ここ数十年の中国では全く逆の動き、つまり、国家が運動を扇動するという現象が現れています。1949 年、暴力革命に よって中国共産党が政権を握って以来、「階級闘争」が絶対的な教義として掲げられてきました。党が脅威と見た様々な団体やイデオロギーを撲滅するために、 実に様々な運

動が行われました。

1950 年代初期には「反革命分子を抑圧する運動」が展開されました。中国の伝統宗教であった仏教と道教の破壊が目的でした。マルクスの無神論主義のため、宗教は党の統治に直接反するものであり、大衆の心を党に捧げることを否定する脅威であるとみなされました。

1957 年には、インテリ階級を狙った「反右派闘争」が繰り広げられました。インテリ階級は、党の動機を分析し暴露する可能性があるからです。この二つの運動は、 党から直接命令が下ったもので、中国の教養あるエリートを大量に虐殺し、中国の伝統文化を共産党文化に置き換えるための基盤を築きました。

文化大革命（1966-1976）は、中国の伝統文化の破滅を意味します。これまでにない大規模な政治運動を通して、中国五千年の文化は、ほぼ完全に破壊さ れました。代わりに毛沢東を崇拝するカルト文化が設立し、中国は彼の思想と論議に教化されました。古代の文物、遺跡、書画、古典、巻物などは全て焼き払わ れました。寺院も仏像も粉々に打ち砕かれ、数百万人が犠牲になりました。中国伝統の祝日、礼儀作法、もてなしなど、文化そのものが、昔のように復興するこ とはもうないでしょう。
大紀元出版の九評共産党の第六章に、この時代のことが系統的に説明されています。

日本語版
九評共産党
http://www.epochtimes.jp/editorial/9ping.html
第六章
http://www.epochtimes.jp/editorial/9ping-6.html

党文化

どの政権または政治制度も、ある種の文化や理念に支えられているものです。例えば、董仲舒（紀元前 2 世紀）は、統治者と高官が儒教 の道徳観に基づいて司政にあたる「仁政」と呼ばれる政治制度を生み出しました。高官になる可能性のある人材の道徳観を査定するために科挙制度が設定され、 特定の役職に就けるかどうかを定める決定的な要因となりました。

「全ての者は平等」であり「天は人権を賦与している」という理念が、民主主義制度を支えています。個人の権利、自由は多くの社会の基盤を成しています。

中国共産党の場合、マルクスの無神論主義のため、人々は「天と地と人と闘う」ことが求められ、「階級闘争」に焦点が当てられています。そして中国共産党は、仏教、道教、儒教を基盤とする中国の伝統文化を、最大のライバルと見なしています。

共 産党は暴力革命によって権力を得たため、選出された政府であるという正統性がなく、西洋の民主主義文化とは一線を引いています。また、ソ連崩壊により共産 主義の理念の正統性は失われました。さらに、中国共産党は中国の文化を数十年にわたって破壊してきました。中国共産党が存続するためには、自分の文化を作 り出す必要があります。多くの中国人はこれを「党文化」と呼んでいます。

数千年にわたり、音楽、舞踊などの伝統芸術は、慈悲、美しさ、その他多くの徳を表現し、中国人の生活の一部を成してきました。しかし今日、中国から現れてきている芸術は、党文化が注ぎ込まれたものであり、陰にも陽にも明らかになっています。

共産党は伝統的なテーマを、自らの暴力に基づく理念に置き換え、芸術を効果的なプロパガンダの手段として利用できることに気づきました。中国共産党の最終的な目標は、人々の心に残された中国の伝統文化を党文化に置き換え、党の権力を守ることにあります。

神韻の目標は、中国の伝統文化と芸術を元々の正統な形で顕現することにあります。舞台の上で、神韻はこれらの伝統的な価値観を復興させます。何代にもわたっ て受け継がれ、生み出されてきた文化的表現を支えてきた価値観です。この失われた伝統と徳を単に表現するだけで、即座に党と闘争のイデオロギーが浮き彫り にされます。

このために中国共産党は神韻を恐れ、このために神韻は中国国内で鑑賞することができないのです。